

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ITビジネスとリスク環境論 I（TDB209）	配当学年	2
講義名（コード）	ITビジネスとリスク環境論 I（TDB209）	単位数	2
対象学科		時間数	30
対象コース		講義期間	春
専攻		履修区分	必修
授業担当者	藤田	授業形態	講義
成績評価教員		実務者教員	
実務者教員特記欄			

2. 本授業科目の概要

目的（位置づけ）	基本的法律体系の理解の上で現行のデジタルビジネスを取り巻く法律・コンプライアンス関係諸問題への知識を身につける
到達目標	
全体の内容と概要	
授業時間外の学修	
履修上の注意事項	
特記事項	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	講師	授業内容
1	企業法務専門家	デジタルビジネスのセキュリティに関わる問題とその社会的インパクト ネット詐欺、フェイクニュース、デマ、プライバシー侵害
2	企業法務専門家	法律体系と司法 判決、判例、裁判所、和解
3	企業法務専門家	個人情報保護法、GDPR 企業の個人情報保護ガバナンス体制 クッキーや位置情報の適正な活用
4	企業法務専門家	著作権、肖像権、商標・商標登録 ネット上の著作物、映像、写真、音声に関わるトラブル
5	企業法務専門家	独占禁止法、公正取引 価格カルテル、不正競争防止法
6	企業法務専門家	特許、ビジネスモデル特許、特許侵害
7	企業法務専門家	サイバー犯罪 個人情報漏洩に関わる問題、風評被害、消費者からの訴訟
8	企業法務専門家	デジタルビジネスとコンプライアンス SNS等サービスプラットフォーム上の内容に関わる責任とコンプライアンス
9	企業法務専門家	デジタルビジネスとコンプライアンス DXと認可事業（旅行代理店業、運送業、旅館業、。。。）
10	企業法務専門家	デジタルビジネスとコンプライアンス FBの情報漏洩和解、Googleの不正競争問題、等トラブル事例
11	企業法務専門家	デジタルビジネスとコンプライアンス 海外での事例
12	企業法務専門家	デジタルビジネスとコンプライアンス EC海外取引に関わる税金
13	企業法務専門家	デジタルビジネスとコンプライアンス GAFA等へのデジタル課税の議論
14	企業法務専門家	期末試験
15	企業法務専門家	デジタルビジネスとコンプライアンス まとめと試験のフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	
備考	・本教員は、企業にて、営業や人事その他の業務を歴任した。その経験を活かして、企業コンサルタント、学校等の高等教育機関にて指導を展開している。

Digital Business Syllabus

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ITビジネスとリスク環境論Ⅱ（TDB210）	配当学年	2
講義名（コード）	ITビジネスとリスク環境論Ⅱ（TDB210）	単位数	2
対象学科	グローバルビジネス	時間数	30
対象コース	デジタルビジネス	講義期間	秋
専攻		履修区分	必修
授業担当者	居山 由彦/増村洋二	授業形態	講義
成績評価教員	居山 由彦	実務者教員	○
実務者教員特記欄	本授業は、実務経験者による授業科目である。		

2. 本授業科目の概要

目的（位置づけ）	今日のサイバー空間で起きるサイバー犯罪の実態を理解したうえでそれに備えるためのセキュリティ技術やコンプライアンス規準についての基礎知識を身につける
到達目標	新しい経済社会空間になったサイバー、ここでの情報環境の整備について、考える力を付けてほしい。
全体の内容と概要	キーワード：サイバー空間の知識、犯罪、法整備、事例
授業時間外の学修	
履修上の注意事項	今回、UDEMYも活用していくので、ノートパソコンを忘れないようにしてほしい。
特記事項	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	講師	授業内容
1	担当講師	情報セキュリティとは ①情報セキュリティ事故事例 ②情報セキュリティはなぜ必要なのか？
2	担当講師	不正のメカニズム ①情報セキュリティマネジメント ②情報資産台帳 ISMSのポイント 事業継続マネジメント
3	担当講師	リスクマネジメント リスクアセスメント 情報セキュリティに対する取り組み
4	担当講師	情報セキュリティ技術 暗号技術 認証技術
5	担当講師	アクセス制御技術 セキュアプロトコル
6	担当講師	サイバー攻撃手法 Webサイトに関する攻撃 接続に関する攻撃
7	担当講師	サイバー攻撃手法 ①ソーシャルエンジニアリング、パスワードへの攻撃 ②Dos攻撃、標的型攻撃
8	担当講師	情報セキュリティ対策 人的セキュリティ対策 物理的セキュリティ対策
9	担当講師	情報セキュリティ対策 ①技術的セキュリティ対策 ②証拠保全、マルウェア対策、モバイル対策
10	担当講師	情報セキュリティに関する法律・標準 個人情報保護法 セキュリティ関連法規 セキュリティ関連標準
11	担当講師	企業概要 サイバーセキュリティサービス
12	担当講師	脆弱性診断はどんなことをすべきか Workshop
13	担当講師	脆弱性診断と事例
14	担当講師	デジタルビジネスとコンプライアンス サイバー犯罪防止体制まとめ
15	担当講師	期末試験

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	・本教員は、企業にて、営業や人事その他の業務を歴任した。その経験を活かして、企業コンサルタント、学校等の高等教育機関にて指導を展開している。